

図書案内

2023年 5月号

旅

5月16日は、松尾芭蕉が奥の細道へと旅立った日であることから、旅の日とされています。風薫る5月は旅にぴったりということで、「旅」をテーマに本を特集しました。

非日常を体験できる、様々な価値観を知ることができる、自分を見つめ直すことができるなど、旅の魅力は数えきれないほどありますが、高校生で旅に行くのは現実的になかなか難しい。そんなときこそ読書です。

本は旅と同等の新しい価値観や見方を伝えてくれるでしょう。ぜひとも5月は、本の中での旅をお楽しみください。



『ブラックオアホワイト』／浅田次郎

皆さんは夢と現実の関係をどのように考えていますか。これは、あるエリート商社マンが、世界各国で見た夢と、その夢に呼応するかの如く変化していった現実について語る物語です。物語を読み進めていくにつれ、作者である浅田次郎さんの巧みな表現に引き込まれ、読者である私たちも、夢と現実の狭間を「旅」をしているような感覚に襲われます。難解な文章ではありませんが、その分色々な解釈ができてとても面白いです。興味がある方はぜひ手に取って読んでみてください。

「すべて夢じゃなかった。」



『すずめの戸締まり』／新海誠

この本は2022年に公開され大ヒットした映画「すずめの戸締まり」の、監督自ら書き下ろした小説版です。17歳の高校生・鈴芽が、地震を引き起こす怪物が出現する「後ろ戸」の鍵を締める仕事である「閉じ師」の青年・壮太と共に、全国を旅しながら災いに立ち向かう物語です。旅の中で出会う人々の温かさに触れて成長する鈴芽の姿を通して、何気ない日常がどれほど尊いものが身に沁みて分かる作品です。映像では表現しきれない巧みで美しい表現が数多く使われており、既に映画を観た人にもお薦めできる作品です。

「あなたは、光の中で大人になっていく」

『ガンジス河でバタフライ』／たかのてるこ



「自分に合う職業がなければ自分でつくればええんよ！」中学校での講演で作者のたかのてるこさんがおっしゃった言葉です。

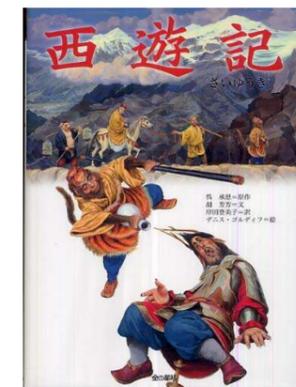
たかのてるこさんは、女一人でぱっと海外に飛び出して、現地の人々と交渉してその家に泊まるような、いわば行動力の化身。

この本はインドが舞台となっています。

インドは日本とは全く気候や構成民族、宗教、文化などが違います。海外において全く違う環境、社会で育った人々と交流することで、より新しい視点から日本や人生を省みることができるようになります。

このエッセイ本にはその体験が綴られています。違う価値観にふれてみたい方はぜひ読んでみてください！

旅は、恋に似ていると思う。



『西遊記』／呉承恩

普段の生活に何となく退屈を感じている方へ。孫悟空は石から生まれ、師の下で七二の変化術を身に付け、地上では負けなし。齊天大聖（天にも齊（等）しい大聖者）と名乗り、天界にも乗り込み誰にでも喧嘩腰。

その圧倒的な強さと大胆さは目を見張るものがあり、皆さんの想像するような堅苦しい古文からは一線を画しています。

君子固より窮す。小人窮すれば斯に濫る。

健康的な歩き方って？



旅に限らず、日常のすべての動きに歩くことはついて回り、特に毎朝歩くことが多い中部生にとっては【良い】歩き方は関心のあるものでしょう。まず、自分が歩いているときの足音に注意を向けてほしい。ドスドス音がするようなら、かかとで着地し、衝撃が1点に集中する「かかと歩き」になっている証拠。まず室内歩きについては、右/後ろ足は踏み込まずにすっと引き上げて、親指の先でそっと床をタッチ。足の甲を伸ばし、ふくらはぎを緩めることを意識する。大きな荷物（肩掛け）があるときは、左右の足は骨盤幅を保ったまま平行に出すと、安定感があり、体のぶれが少ない。（足を真ん前に出す）体がぶれないと、腕も肩甲骨の揺れに引っ張られて揺れる程度のため、荷物に振り回されずに済む。この時、モデルのように歩いてしまうと、余計な力が入ってしまい、体に負担がかかってしまう。おまけに、立ち上がるときは、腰を少し前方へずらし、足を椅子の近くに引き寄せる。それから上半身を真っすぐに上げるように立つと、腰への負担が小さい。膝に手を置いて立ち上がると、頭の重さが腰にかかり、負担がかかってしまう。

<https://gooday.nikkei.co.jp/atcl/report/14/091100031/101800516/>